



「龍驤飛行機隊戦闘行動調書」

昭和 17 (1942) 年 8 月、米豪遮断を企図していた陸海軍と、本格的反攻を開始した連合軍は、南東太平洋方面で戦闘を繰り広げました。ガダルカナル島の飛行場をめぐる攻防は、同月 21 日の同島における一木支隊先遣隊の全滅、そして 24 日の第二次ソロモン海戦と続きました。この海戦では、米海軍の攻撃によって空母「龍驤」が撃沈されています。

この史料は、「龍驤」を母艦とした飛行機隊の戦闘行動調書です(登録番号：⑤航空部隊-行動調書 22)。史料中、上掲の箇所で「六月十八日以後ノヱ（軍隊符号：「飛行機」の意）機隊行動ハ八月二十四日全艦沈没ニ因リ全日ノ分ヲ除キ其他ハ資料佚散シ行動調書作成スルヲ得ズ」という文面が確認できます。この記載通り、第二次ソロモン海戦の結果、6 月 18 日から 8 月 23 日までの文書が失われました。なお、これ以降に海戦当日である 8 月 24 日の戦闘行動に関する文書が綴られています。沈没のため、当然ながら母艦に收容されなかった飛行機隊は、一部がブカ基地に帰投した他、大部分は不時着水し、搭乗員は收容されました(『戦史叢書 南東方面海軍作戦〈1〉』)。

日米両海軍の間の決戦ともいえる海空戦によって、米海軍も犠牲を払いましたが、陸海軍は航空戦力消耗に加え、補給途絶に苦しめられ、翌年、ガダルカナル島からの撤退を余儀なくされました。